

# IIAS NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

December 2007

# 57

 財団法人  
国際高等研究所

<http://www.ias.or.jp>

index

報 告	研究活動報告(10月1日~11月30日)
	平成19年度二国間交流事業共同研究・セミナー 「ハンガリーとのセミナー」
	第2回企画委員会開催(11月1日~2日)
	2008年度科学研究費補助金(特定奨励費)事業計画調書の提出
	高等研のフェロー委嘱
	中川副所長が国際18世紀学会で発表(7月9日~13日)
	北川副所長がソウル大学で講演(8月28日~29日)
	高等研公開講演会 「生きているということ~やわらかな生命~」(10月27日)
参加者募集	高等研公開講演会「江戸時代の新しい見方~近代の胎動・ 近年の数量経済史研究の成果から~」(2008年2月23日)
報 告	高等研報告書4書を刊行(12月20日)

訃 報 林田悠紀夫顧問のご逝去

IIASカレンダー ●研究活動(12月1日~2008年2月29日)

- 研究プロジェクト
- 公開講演会

お 知 ら せ ●謝恩の餅つき会

## 研究活動報告(10月1日～11月30日)

## ●研究プロジェクト

研究タイトル	開催日	研究代表者	参加者数
共同研究の法モデル	10月1日(月)～30日(火)(15回開催)	北川善太郎	延べ79
ハンガリーとのセミナー(日本学術振興会)	10月8日(月)～12日(金)	足立 裕彦	39
多階層連結コンピューティング(フォーラム)	10月12日(金)～13日(土)	三間 園興	53
数理解析研究所RIMS共同研究特別計画「数論と確率論」 (京都大学数理解析研究所との協定に基づく共同研究)	10月15日(月)～16日(火)	高橋陽一郎	28
電子系の新しい機能	10月26日(金)～27日(土)	新庄 輝也	38
計算機マテリアルデザインコピーマートの構築	10月27日(土)	中西 寛	8
2007年度第2回企画委員会	11月1日(木)～2日(金)	金森順次郎	20
次世代情報サーチに関する総合的研究(ワークショップ)	11月1日(木)	田中 克己	206
共同研究の法モデル	11月5日(月)～11月29日(木)(12回開催)	北川善太郎	延べ72
声～生物学的、社会的、物理学的展望～	11月20日(火)～21日(水)	藤村 靖	5
すきまの組織化	11月24日(土)～25日(日)	鳥海 光弘	6
「多階層連結コンピューティング」(フォーラム、幹事会)	11月24日(土)	三間 園興	10

## ●イベント

テーマ	開催日	担当者	参加者数
生きているということ～やわらかな生命～	10月27日(土)	星 元紀	65

## 平成19年度二国間交流事業共同研究・セミナー「ハンガリーとのセミナー」

日本学術振興会の平成19年度二国間交流事業共同研究・セミナーにおいて、ハンガリーとのセミナーを2007年10月8日～12日の5日間に亘ってハンガリーのデブレツェン、セゲド、ブダペストにおいて開催しました。

本セミナーは、第1回目は「先端科学技術における物理学」を1997年にハンガリーで、第2回目は「先端科学技術における物理学(II)-光科学の最前線」を2002年に日本(国際高等研究所、大阪大学、高輝度光科学研究センター)で行っており、今回は3回目、日本からは足立裕彦 フェロー・京都大学名誉教授を代表者として14名が参加しました。

「粒子・フォトンビームを用いた科学技術」という包括的なテーマの中で、両国間で活発に行われている共同研究や双方で特に関心の深い研究をテーマとして最新の研究成果の紹介と議論を通して両国間の相互の理解を深めることができました。

なお、ハンガリー側から日本における最近の大学改革、科学全般の動向について講演を要請され、金森順次郎所長が、大学指導者および一般聴衆に対して「日本の高等教育と最近の大学制度の改革」についての講演をされました。

## 第2回企画委員会開催(11月1日～2日)

2007年度第2回企画委員会が、企画委員、上級研究員、特別委員、フェロー等18名が出席して11月1日～2日に開催されました。

委員会では、金森順次郎所長から本年度の研究事業の進捗状況及び来年度の研究事業計画の概要について説明があり、それを受けて意見交換が行われました。

また、北川善太郎副所長から「高等研モデルの生成と原点」についての説明があり、続いて手島勲矢企画委員による「近代と古典研究:聖書学とユダヤ学の場合」、田中克己企画委員による「社会情報基盤としてのサーチエンジンと今後のあり方」の話題提供があり、これらについて活発な質疑応答が行われました。



報告

## 2008年度科学研究費補助金（特定奨励費）事業計画調書の提出

2008年度科学研究費補助金（特定奨励費）の事業計画調書（研究事業名「人類社会の調和的発展のために問題解決の統合システム創造に係る基礎研究」）を11月13日文部科学省に提出しました。

今回は3年計画の最終年度で、2008年度申請額は従来の交付額と同額の3,900万円としました。

報告

## 高等研のフェロー委嘱

阿部博之 科学技術振興機構顧問・東北大学名誉教授（固体力学）を今年度フェローとして新たに招へいすることが決まりました。委嘱期間は2008年1月19日から1年間の予定です。

報告

## 中川副所長が国際18世紀学会で発表（7月9日～13日）

7月にフランスで開催された国際18世紀学会で中川久定副所長が、「『百科全書』の刊行時における、その最も透徹した読み手：アブラム＝ジョセフ・ド・ショメ」のテーマで発表されました。

以下、中川久定副所長からの寄稿文を転載します。

本年7月9日から13日の間、国際18世紀学会（会員数：約13,000人）が、南仏モンプリエ市で開催された。私は「『百科全書』の刊行時における、その最も透徹した読み手：アブラム＝ジョセフ・ド・ショメ」と題する発表を行った。

『百科全書』が、1757年に8巻目で発売禁止になった直後、熱烈なカトリック信奉者ショメは、この時点の詳細な反駁書『正当な偏見』（全8巻）を刊行した。百科全書派は、たちまちショメをばか者扱いして、集中的な攻撃を加える。「ショメ＝ばか者」説をそのまま信じた研究者たちは、今日にいたるまで、彼のこの膨大な著作をまともに扱おうとはしてこなかった。しかし、私が検討した限り、ショメは『百科全書』の真の意図を最も忠実に見抜いた読者であった。

この逆説的な事態を、私は文献に即して解明して、欧米の18世紀啓蒙主義研究にまったく新しい視点を導入することを試みた。

報告

## 北川副所長がソウル大学で講演（8月28日～29日）

北川善太郎副所長が、8月28日、ソウル大学校法科大学院で開催された国際シンポジウム「韓中日民法の統一」（主催：財団法人韓中日民法統一研究所）に招待され「日本法の契約法とモデル契約法」というテーマでアジアにおけるモデル契約法の可能性について講演されました（同報告は民商法雑誌136巻6号1～26頁に発表されています）。

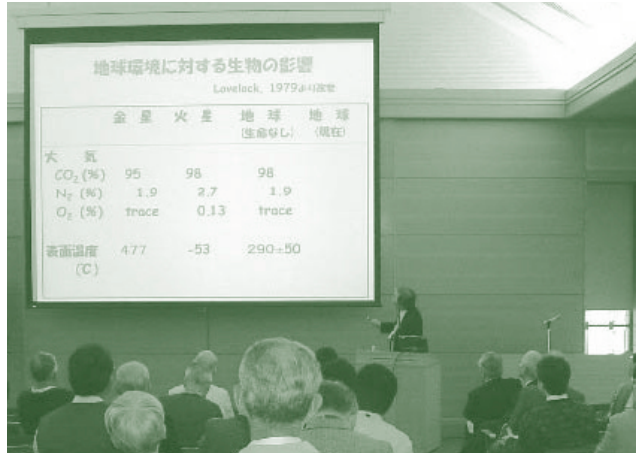
国際シンポジウムに引き続き、翌29日に同じくソウル法科大学院において同法科大学院の”Foreign Authority Forum”と韓国法史学会の共催で特別講演「日本民法学の歴史と理論」をされました。

## 高等研公開講演会「生きているということ～やわらかな生命～」(10月27日)

10月27日(土)に京都銀行の協賛による2007年度第2回目の公開講演会を開催しました。

星 元紀 放送大学教授・東京工業大学名誉教授を講師にお招きし、演題「生きているということ～やわらかな生命～」の講演会には65名の方々が聴講されるとともに熱心な質疑応答が行われました。

生命の多彩な世界を概観しながら、その柔らかさゆえの頑丈さについて紹介されました。



## 参加者募集 高等研公開講演会「江戸時代の新しい見方～近代の胎動・近年の数量経済史研究の成果から～」(2008年2月23日)

本事業は、京都銀行のご協賛をいただき実施します。

- ・演題:「江戸時代の新しい見方～近代の胎動・近年の数量経済史研究の成果から～」
- ・講師:宮本又郎 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科教授
- ・開催日:2008年2月23日(土) 14時～16時
- ・場所:高等研レクチャーホール
- ・対象:高校生以上
- ・聴講:無料



### ●講演要旨:

江戸時代といえば一昔前では、「純粹封建制」の時代、「停滞社会」としてほとんどの日本人が暗いイメージをもって思い浮かべた時代でした。このような伝統的歴史像に対して、日本の近代経済成長を準備した時代として、江戸時代を見直そうという動きがここ十数年強まってきました。江戸時代をプレ・モダン(前近代)ではなく、アーリー・モダン(初期近代)として再検討しようという潮流です。

こうした見方は数量経済史という分析手法に支えられて登場してきたものです。数量経済史とは、いままであまり光があてられなかったマクロ経済の動きや庶民の生活上の変化を数量データの収集と分析によって明らかにしようというもので、近代経済学や統計学の手法を積極的に取り入れているところに大きな特色があります。

本講演では、主として、このような数量経済史の方法による江戸時代経済史の新動向をとくに最も着実に研究が進んだ物価史と人口史に焦点を絞って、お話したいと考えています。



堂島米市場立ち会いの風景(『撰津名所図会』から)

## 高等研報告書4書を刊行(12月20日)

12月20日に高等研報告書4書を刊行しました。2001年度から2006年度にかけて高等研で実施した研究プロジェクトの成果として取りまとめられたものです。ご関心をお持ちの方々にご一読をお薦めします。

お申し込みは、コピーマート研究所(TEL/075-315-9923 FAX/075-315-9368)まで。



報告書名/701「一つの世界」の成立とその条件  
研究代表者/中川久定、研究年度/2001～2003年度  
サイズ/B5版・頁数/254頁、価格/1,900円(税別)



報告書名/704「動・植物における分化全能性」  
研究代表者/原田宏、研究年度/2003～2006年度  
サイズ/B5版・頁数/220頁、価格/1,600円(税別)



報告書名/707「国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成」  
研究代表者/田中成明、研究年度/2003～2005年度  
サイズ/B5版・頁数/308頁、価格/1,800円(税別)



報告書名/711「コア・エグゼクティブと幹部公務員制度の研究」  
研究代表者/村松岐夫、研究年度/2005～2006年度  
サイズ/B5版・頁数/200頁、価格/1,600円(税別)

## 林田悠紀夫顧問のご逝去

林田悠紀夫顧問(元京都府知事、元法務大臣)が11月11日、ご逝去されました。

故林田顧問には、当時の京都府知事として高等研の財団設立の中心人物としてご尽力を賜り、設立発起人をお努めいただきました。謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。



## ●研究活動 (2007年12月1日～2008年2月29日)

開催予定日	研究プロジェクトのタイトル	研究代表者
12月3日(月)	共同研究の法モデル	北川善太郎
12月4日(火)	共同研究の法モデル	北川善太郎
12月5日(水)	文化財保全技術(幹事会)	志水 隆一
12月5日(水)	文化財保全技術	志水 隆一
12月6日(木)	共同研究の法モデル	北川善太郎
12月7日(金)～8日(土)	女性研究者と科学技術の未来	伊藤 厚子
12月10日(月)	共同研究の法モデル	北川善太郎
12月11日(火)	共同研究の法モデル	北川善太郎
12月14日(金)～15日(土)	多元的世界観の共存とその条件～閉ざされた世界から開かれた世界へ～	石川 文康
12月15日(土)	スキルと組織	榎木 哲夫
12月17日(月)	共同研究の法モデル	北川善太郎
12月18日(火)	共同研究の法モデル	北川善太郎
12月26日(水)	電子系の新しい機能(幹事会)	新庄 輝也
12月26日(水)～27日(木)	19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究	吉田 忠
12月27日(木)	声～生物学的、社会的、物理学的展望～	藤村 靖
1月7日(月)～8日(火)	メタマテリアルの物理と応用	萩行 正憲
1月9日(水)～10日(木)	21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題～人文社会科学からのアプローチ(フォローアップ研究)	木下 富雄
1月12日(土)	細胞履歴に基づく植物の形態形成(細胞履歴と形態形成)	鎌田 博
1月19日(土)	IIASフェロー研究会「科学技術と知の精神文化～新しい科学技術文化(仮称)の構築に向けて」 (独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターとの合同開催)	阿部 博之
1月25日(金)～26日(土)	電子系の新しい機能	新庄 輝也
1月26日(土)	スキルと組織	榎木 哲夫
2月15日(金)～16日(土)	2007年度第3回企画委員会	金森順次郎
2月19日(火)～20日(水)	生物進化の持続性と転移	津田 一郎
2月19日(火)～20日(水)	多元的世界観の共存とその条件～閉ざされた世界から開かれた世界へ～	石川 文康

## ●公開講演会

開催予定日	講演テーマ	講師
2月23日(土)	江戸時代の新しい見方～近代の胎動・近年の数量経済史研究の成果から～	宮本 又郎

## お知らせ

### ●謝恩の餅つき会

今年は、仕事納めの12月28日コミュニティホールで開催の予定です。

高等研では、毎年恒例行事として餅つき会を開催しています。

日頃から高等研事業をご支援・お手伝いいただいている近隣のボランティアの方々や研究機関の方々をお招きして、平素の感謝の気持ちを込めて行っているものです。

金森順次郎所長を始め、滞在中の研究者や事務局職員と一緒につきたてのお餅などを味わいながら、にぎやかに歓談し共に楽しい一時を過ごす予定です。



(2006年12月の餅つき会風景)

編集・発行者

財団法人 国際高等研究所

〒619-0225 京都府木津川市木津川台9丁目3番地  
 TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005  
 E-mail: editor@iias.or.jp  
 http://www.iias.or.jp